

# 精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

科目コード

CR3154

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	志村 祐子



※この科目は、2012年度以降入学者に対して開設されている科目です。2011年度以前に入学した方は履修することはできません。

※スクーリングを別教員（狩野俊介先生）が担当いたします。

## 科目の概要

### ■科目の内容

2012（平成24）年4月からの新カリキュラムにおいて、本科目は「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」にあたるものです。「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」ならびに「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」を習得することが求められています。主な内容は様々な問題に対応する精神保健福祉士としての役割、相談援助の定義・理念・形成過程、他の専門職についての理解をした上での多職種との連携の仕方などについて学びます。「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」を学ぶ上での基盤となる科目です。

※この科目の担当教員は、精神保健福祉の相談援助の実務経験を有します。

### ■到達目標

- 1) 援助技術についての理解を深め実践できる。
- 2) 記録の書き方を理解し実践できる。
- 3) 様々な関連技術について説明できる。
- 4) 多職種との連携の取り方を説明できる。
- 5) ライフステージにおける課題がつかめ、それぞれのステージにおける問題に対する支援の仕方を理解できる。

### ■教科書（「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」と共通）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー3（第6版）精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎][専門]』へるす出版、2017年 第3章Ⅲ～第6章（改訂新版でも可）

（最近の教科書変更時期）2017年4月

※「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。

### ■履修登録条件

この科目は「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

## ■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

専門的知識を、素人である対象者が理解できる言葉で説明できる力を身につけて欲しい。

## ■科目評価基準

レポート評価70%+スクーリング評価 or 科目修了試験30%

## ■参考図書

- 1) F・P・バイステック著 尾崎新他訳『ケースワークの原則』誠信書房、1996年
- 2) C・A ラップ、R・Jゴスチャ著 田中英樹監訳『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント 第2版』金剛出版、2008年

※教科書記載の参考図書も参考にするとよいでしょう。

## スクーリング

※「精神保健福祉援助技術総論」(4単位)のスクーリング受講者は、同一年度に「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」(前半)と合わせてスクーリングを受講すること。

## ■スクーリングで学んで欲しいこと

- ・精神保健福祉士の役割および基本的な相談援助技術を理解し、多職種といかに連携していくかを理解して欲しい。
- ・人のライフステージにおける課題とメンタルヘルスについての理解をして欲しい。

## ■講義内容

回数	テーマ	内容
1	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程①	ソーシャルワークの展開過程
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程②	グループを活用した支援、地域を対象とした支援
3	専門職としての技術①	アセスメント、アウトリーチ
4	専門職としての技術②	記録
5	関連する援助技術の概要①	ケアマネジメント、クライシス・プラン
6	関連する援助技術の概要②	SST、心理教育
7	精神保健福祉分野における多職種との連携	チームアプローチ、多職種連携の形態
8	ライフステージにおける精神保健福祉士の役割 質疑応答	ライフステージにおける発達課題、メンタルヘルス課題
9	スクーリング試験	

## ■講義の進め方

上記講義内容にそって、講義を進める。

## ■スクーリング 評価基準

授業への参加状況20%とスクーリング試験80%（持込可）で評価します。

## ■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト第3章Ⅲ～第6章、およびケアマネジメント、SSTについて事前学習をしてきてください。

### レポート学習

## ■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程① (第3章ⅢA)	ソーシャルワークの展開過程を理解する。 キーワード：インテーク、契約、アセスメント、エコマップ、ジェノグラム、支援計画、支援の実施	ソーシャルワークの展開過程のそれぞれの場面の意味を理解する。
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程② (第3章ⅢB、C)	ソーシャルワークの3領域について学び、個別支援における面接技術について理解する。 キーワード：ミクロ、メゾ、マクロ、面接、生活場面面接、守秘義務	3つの領域と生活場面面接について押さえる。
3	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程③ (第3章ⅢC)	記録について理解する。 キーワード：ケース記録、叙述体、逐語録、要約体、フェイスシート、エコマップ、ジェノグラム	記録の形式について理解し、活用できるように押さえる。
4	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程③ (第3章ⅢD)	グループを活用した支援について理解する。 キーワード：グループワーク、グループワークの展開過程、グループワークにおけるプログラム、グループワーク実践の基本原理、原則	グループワークとはどのような支援方法かを説明できるようにまとめる。
5	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程④ (第3章ⅢE)	地域を対象とした支援について理解する。 キーワード：コミュニティワーク、プロセスモデル、様々な技法	コミュニティワークの支援方法について問題の抽出の技法を押さえながらまとめる。
6	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向① (第4章Ⅰ・Ⅱ)	わが国にソーシャルワークが導入された歴史を理解する。 キーワード：マイヤー、リッチモンド、ピアーズ、呉秀三、全国組織化	アメリカにおける精神科ソーシャルワークの草創期を押さえ、わが国への導入の経緯を押さえる。
7	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向② (第4章Ⅲ)	精神保健分野における混乱期以降の歴史を理解する。 キーワード：精神衛生法、精神保健法、障害者基本法、障害を持つアメリカ市民法(ADA)、全家連、倫理綱領、精神保健医療福祉の改革ビジョン、障害者自立支援法	現在の精神保健福祉の状況が成立した過程を押さえる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	精神保健福祉分野における多職種との連携① (第5章I A)	医療機関における専門職について理解する。  キーワード：社会福祉専門職、医師、看護師、施行療法士、理学療法士、臨床心理技術者、薬剤師、管理栄養士、退院後生活環境相談員	医療機関における多職種の専門性を押さえる。
9	精神保健福祉分野における多職種との連携② (第5章I B)	福祉行政、関連行政機関における専門職について理解する。  キーワード：保健所の医師、保健師、福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、障害者職業カウンセラー、ジョブコーチ、精神障害者雇用トータルサポーター、社会復帰調整官	福祉行政、関連行政機関における専門職の役割を押さえる。
10	精神保健福祉分野における多職種との連携③ (第5章I C)	民間施設・組織における専門職について理解する。  キーワード：施設長、生活指導員、介護福祉士、社会福祉士、社会福祉協議会の職員、地域包括センターの職員、介護支援員、相談支援専門員、サービス管理責任者、居宅介護従事者、ピアサポーター	民間施設・組織における専門職について整理する。
11	精神保健福祉分野における多職種との連携④ (第5章II A)	チームアプローチと多職種連携について理解する。  キーワード：チームアプローチ、専門職志向、専門性志向、利用者尊重志向、協働性志向、	チームアプローチについてまとめる。
12	精神保健福祉分野における多職種との連携⑤ (第5章II B)	精神保健福祉領域における多職種連携の現況を理解する。  キーワード：チーム医療、指導・監督の関係、生活者支援の視点モデル、利用者中心主義、利用者の参加など包括的なアプローチの原則、多職種連携の形態	様々な連携の在り方を押さえる。
13	精神保健福祉分野における多職種との連携⑥ (第5章II C、D)	多職種連携における精神保健福祉士の専門性について理解する。  キーワード：精神保健福祉士の視点、利用者の参加	多職種連携における精神保健福祉士の専門性についてまとめ説明できるようにする。
14	精神保健福祉分野における多職種との連携⑦ (第5章III)	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援について理解する。  キーワード：生活支援、谷中輝雄、ごく当たり前の生活	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援について理解し、精神保健福祉士の役割を押さえる。
15	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割 (第6章)	メンタルヘルスについて理解し、ライフステージにおける精神保健福祉士の役割について理解する。  キーワード：メンタルヘルス、ライフステージの課題、エリクソンの発達課題	ライフステージにおける、発達課題を理解し、精神保健福祉士の役割についてまとめる。

## ■レポート課題

1 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」3 単位めに該当 『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」4 単位めに該当 多職種連携の必要性と精神保健福祉士の役割を述べてください。 ※1,900字以上記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

**(2018年度以前履修登録者)** 2019年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

**(2016年度以前履修登録者)** 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題での提出は、2018年9月で受付を締め切りました。

## ■アドバイス

テキストは初めて学ぶ人にはやや困難な内容かもしれませんので、参考文献にも目を通し、調べ学習をしてください。また、「ソーシャルワーカーは足で稼ぐ」といわれているほど自分が一つの社会資源となって動くことが大切ですので、実際の現場に足を運ぶなど、目で見て確かめることもできれば行ってみてください。人とかかわる仕事をしていく上で、いかにコミュニケーションをとっていけるかはとても大切な能力です。自分がしたいことを相手に伝えること、わからないことを人に聞くことも大事なコミュニケーション能力です。

1 単位め  
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め  
アドバイス

第5章をよく読み、様々な分野における連携の必要性についてまとめ、その中での精神保健福祉士の果たす役割、求められている役割について述べてください。

## 科目修了試験

## ■評価基準

教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。